

第 91 回接続料の算定等に関する研究会の議論を踏まえた
株式会社オプテージへの追加質問及び回答
(移動通信分野における接続料等と利用者料金との関係の検証関係)

問 1 MNO 各社による何をスタックテストの対象とするかのプレゼンについて、貴社として、必ずしも論理的に納得できない、理解できない部分について、コメント頂けると有難いです。

(佐藤構成員)

(オプテージ回答)

＜ソフトバンク株式会社による「Y!mobile シンプル 2M プランを検証すれば、LINEMO ベストプラン V の検証は不要と考える」との主張に対して＞

- 検証に当たって利用者料金から控除される割引は、利用者に占める現に割引を受ける者の割合に割引額を乗じた金額とされており、検証で用いられる利用者料金は Y!mobile シンプル 2M プランの方が安価であると判断できないと考えます。

このことから、Y!mobile シンプル 2M プランの最安料金と LINEMO ベストプラン V の最安料金の比較ではなく、検証で用いられる利用者料金を比較した上での判断が必要と考えます。

＜KDDI 株式会社による「povo 2.0 (360GB/365 日) は 30GB/月の競合プランではない」との主張に対して＞

- スタックテスト指針に定められる通り指定事業者が提供するサービスと競争事業者が提供するサービスの月額相当額を比較することとなっており、365 日の利用期間を 1 ヶ月に換算することで、月額相当額を算出することには一定の合理性があるものと考えます。

＜ソフトバンク株式会社による「MVNO がより高い通信品質を求めるのであれば、相応の帯域・冗長を調達することで確保できるものと考えます」との主張に対して＞

- MNO と同等の通信品質を確保するためには、現在確保している数倍の帯域が必要となることから、MNO のサブブランド・廉価プランと同等の料金水準でサービス提供することは困難と考えます。

問2 営業費相当額の算出方法について、直近5年間の平均値により算出することに一定の合理性があるとしても、直近3年間の平均値又は6年間の平均値により算出することについても同様に一定の合理性があると考えられる。どの程度の期間の平均値を用いることがより合理的と考えるかについて、論理的に説明していただきたい。

(佐藤構成員)

(オブテージ回答)

- 複数年の平均を採用することに一定の合理性はあるものの、モバイル市場の競争環境の変化は激しいことを踏まえると、より至近の数値を重視した検証となることが望ましいと考えます。